



3 「健康づくり」

分野5 歯と口腔の健康



1 指標の達成状況と評価

成果指標

評価指標	基準値 令和2年度 (2020年度)	現状値 令和5年度 (2023年度)	目標値 令和8年度 (2026年度)	評価	出典
① 3歳児歯科健診におけるむし歯のない幼児の割合	90.7%	93.9%	100%	b	1
② 12歳(中学1年生)における永久歯のむし歯経験歯数	0.58本	0.37本	0.39本以下	a	2
③ 成人歯科健診における進行した歯周病にかかっている人の割合(35~44歳)	52.9%	52.0%	36.2%以下	b	3
④ 80歳で20歯以上の自分の歯を有する人の割合	69.4%	72.0% 【令和4年度 (2022年度)】	72.7%以上	b	3

取組の評価指標

評価指標	基準値 令和2年度 (2020年度)	現状値 令和5年度 (2023年度)	目標値 令和8年度 (2026年度)	評価	出典
⑤ 歯科健診受診率	55.7% 【令和元年度 (2019年度)】	—	65%以上	—	4
⑥ 歯間部補助清掃器具の使用者の割合	35~44歳： 71.5% 45~54歳： 72.9%	35~44歳： 83.3% 45~54歳： 81.8%	35~44歳： 72.5%以上 45~54歳： 73.9%以上	a	5

評価指標		基準値 令和2年度 (2020年度)	現状値 令和5年度 (2023年度)	目標値 令和8年度 (2026年度)	評価	出典
⑦	食生活においてよく噛むことを重視している人の割合	26.6% 【令和元年度 (2019年度)】	—	36.7%以上	—	4
⑧	75歳以上で口腔機能の維持向上の方法を知っている人の割合	12.4%	14.7%	27.8%以上	b	6
⑨	歯周病と糖尿病の関係について知っている人の割合	60.2% 【令和元年度 (2019年度)】	—	増加	—	4
⑩	オーラルフレイルについて知っている人の割合	—	20.6% 【令和4年度 (2022年度)】	13.1%以上	a	7

指標の出典一覧

- 1 吹田市3歳児健康診査の歯科健康診査結果
- 2 吹田市児童生徒定期健康診断歯科健康診査結果
- 3 吹田市成人歯科健康診査結果
- 4 吹田市健康に関する市民意識アンケート調査 令和元年度(2019年度)
- 5 吹田市成人歯科健康診査問診結果
- 6 吹田市成人歯科健康診査(75歳以上対象受診者)、大阪府後期高齢者医療歯科健康診査
- 7 市民意識調査

※⑩は令和4年度(2022年度)にて把握のため、基準値なし

2 これまでの主な取組

(1) 歯科健診の実施

行政の取組

- ・ 乳幼児期から高齢期までの幅広い世代に歯科健診を実施しました。また、令和5年10月から、吹田市歯科健康診査の対象年齢を30歳から15歳に引き下げ、切れ目ない受診体制を構築しました。
- ・ 在宅要介護者・見への訪問歯科健診を実施しました。また、障がい者施設の通所者に対し、歯科健診及び口腔衛生指導を行いました。

(2) 歯科健診の受診勧奨

行政の取組

- ・ 妊娠届出時に妊産婦歯科健康診査の受診勧奨を行いました。また、乳幼児歯科健康診査の対象者に個別で勧奨通知を発送しました。
- ・ スーパーや薬局等の身近な場でのポスターの掲示やチラシの配架、イベント、ホームページ、SNSでの情報発信等、様々な機会を捉え、歯科健診の受診勧奨を行いました。
- ・ 厚生労働省のモデル事業（就労世代の歯科健康診査等推進事業）に参加し、就労世代等への効果的な歯科健診の受診勧奨コンテンツを作成、市職員、市内の大学生などを対象に実証を行いました。
- ・ 市が実施する30歳代健康診査や国保健康診査の受診者のうち、生活習慣病のおそれがある人に送る案内に歯科健診等の内容を掲載し、受診勧奨しました。
- ・ 国保健康診査の受診者のうち、糖尿病の治療中の人に対して、オーラルフレイルチェックを行い、糖尿病と歯周病との関係や歯周病予防の方法を伝えるとともに、定期的な歯科健診の受診を促しました。
- ・ 市報やホームページ、SNSを活用した啓発や、大学生向け講座、イベント等、様々な機会を捉えて歯科健診の受診を勧奨しました。

地域団体の取組

- ・ 吹田市歯科医師会では、歯科医師会ホームページ等を通じて、定期的に歯科健診を受診することの大切さについて周知・啓発しました。

(3) ライフステージに応じた指導及び周知啓発

行政の取組

- ・ 妊婦と家族に対し、歯科医師、歯科衛生士等の専門職による歯周病予防やむし歯予防の講座（マタニティデンタル）を実施しました。
- ・ 幼稚園、小・中学校において、学校歯科医による歯磨き指導や講話等を実施しました。
- ・ 後期高齢者医療健康診査のうち、口腔機能が低下している方を対象に、歯科衛生士等による個別指導や口腔機能向上を目的とした教室等を実施しました。
- ・ 健康教室、出前講座、イベント等で、歯科疾患の予防、口腔機能向上のための歯と口腔の健康について啓発しました。
- ・ 吹田市口腔ケアセンターにおいて、歯科口腔保健に関する情報発信や相談対応を行いました。また、令和6年度から介護職員を対象とした口腔ケア実践講座を実施し、要介護者への口腔ケアに関する支援の充実を図ります。

地域団体の取組

- ・ 吹田市歯科医師会では、子どもの頃からむし歯予防等を意識するきっかけづくりとして、市内の幼稚園や学校からむし歯予防に関するポスターや作文を募集し、優秀作品を表彰しました。また、口腔ケアに努めている児童、生徒を表彰しました。
- ・ 吹田市歯科医師会では、80歳以上で20本以上の歯を有する人を表彰しました。また、口腔ケアセンターにおいて、飲み込む機能の維持や改善のための教室を実施しました。

- ・吹田市歯科医師会では、歯や口腔ケアに関する知識の啓発として、出前講座を実施したほか、年代や対象に応じた教室や指導を実施しました。

3 現状と課題

- ・歯と口腔の健康に関する指標については、総じて改善傾向にあります。
- ・3歳児歯科健診におけるむし歯のない幼児の割合及び12歳（中学1年生）における永久歯のむし歯経験歯数の2つの指標は現状値が目標値を達成していることから、保護者のむし歯予防に対する意識が高まっているものと考えられます。
- ・80歳で20歯以上自分の歯を有する人の割合は増加しています。国の8020運動の開始から約30年が経過し、歯と口腔の健康への関心が高まり、高齢になっても自分の歯を多く保つ人が増えているものと考えられます。
- ・歯間部補助清掃用器具（歯間ブラシやデンタルフロス）の使用者の割合は、増加傾向にある一方で、成人歯科健診における進行した歯周病にかかっている人の割合はわずかな低下にとどまり、目標値の達成にまで時間を要することが見込まれることから、引き続き、歯周病予防のために必要な情報の啓発に取り組む必要があります。
- ・75歳以上で口腔機能の維持向上の方法を知っている人の割合は増加傾向にあるものの、目標値に達していません。高齢期になると噛みにくさや口腔機能の低下がみられることが多いため、オーラルフレイル予防の周知啓発に努める必要があります。

4 指標・目標値の見直し

(1) 成果指標

該当なし。

(2) 取組の評価指標

該当なし。

5 今後の取組の方向性

- ・若い世代からの歯と口腔の健康維持・向上の必要性について、周知啓発します。また、保健医療、福祉などの関係機関が連携し、定期的な歯科健診の受診勧奨等を実施します。
- ・妊娠中の歯と口腔の健康について、妊娠届出時や講座を通じて引き続き啓発します。
- ・幅広い世代が集まるイベント等において、歯科健診の受診勧奨や自分に合ったセルフケアの方法について、周知啓発します。
- ・次世代や就労世代への啓発を強化するため、大学や企業等と連携したアウトリーチ型の取組について、口腔ケアセンターでの実施を含め検討します。
- ・オーラルフレイルの認知度を高めるため、ひろばde体操等、地域の身近な場で参加しやすい通いの場を活用した周知啓発を行います。